



FSSI
Research Report

Kanazawa University

2021. 12

Topic



2021 年度 創発的研究支援事業の採択傾向

本年度の創発的研究支援事業の採択者が 11 月 26 日に科学技術振興機構より公表されました。
本学からは 3 名の方が採択されました。

創発的研究支援事業

破壊的イノベーションにつながるシーズの創出を目指す「創発的研究」を推進するため、既存の枠組みにとらわれない自由に挑戦的・融合的な多様な研究を、研究費平均 700 万円/年 (+間接経費) で原則 7 年間 (中間審査を挟む、最大 10 年間) にわたり長期的に支援します。応募は 2020、2021、2022 年度の 3 回のみです。来年度が最後の公募となります。

採択率

総応募数：2,314 件 (前回 2,537 件)
採 択 数：259 件 (前回 252 件)
全体の採択率：11.2 % (前回 9.9 %)
採択機関数：65 機関 (前回 81 機関)
採択者の男女比率：3.54 : 1 (前回 4.35 : 1)

本学の採択者

高山 雄貴 准教授 (理工研究域 地球社会基盤学系)
山野 友義 助 教 (医薬保健研究域 医学系)
細川 晃平 助 教 (附属病院 高密度無菌治療部)

2022 年度の応募にむけて

対象者は 2022 年 4 月 1 日時点で博士号取得後 15 年以下 (ただし、臨床研修、出産・育児・介護等での期間の特例があります) の研究者です。4 月 1 日に公募開始予定です。

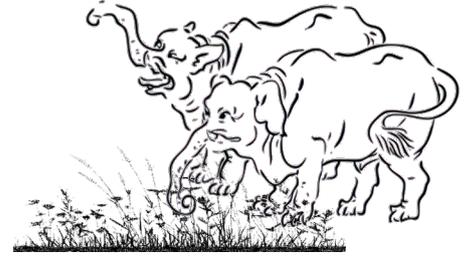
創発的研究支援事業 HP

<https://www.jst.go.jp/souhatsu/index.html>

機関別の採択者数 (採択者数 3 以上の機関のみを表示)



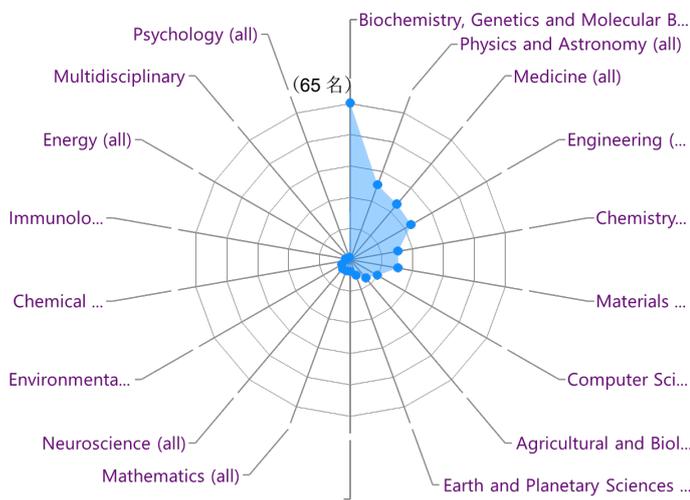
Topic



採択者の研究分野

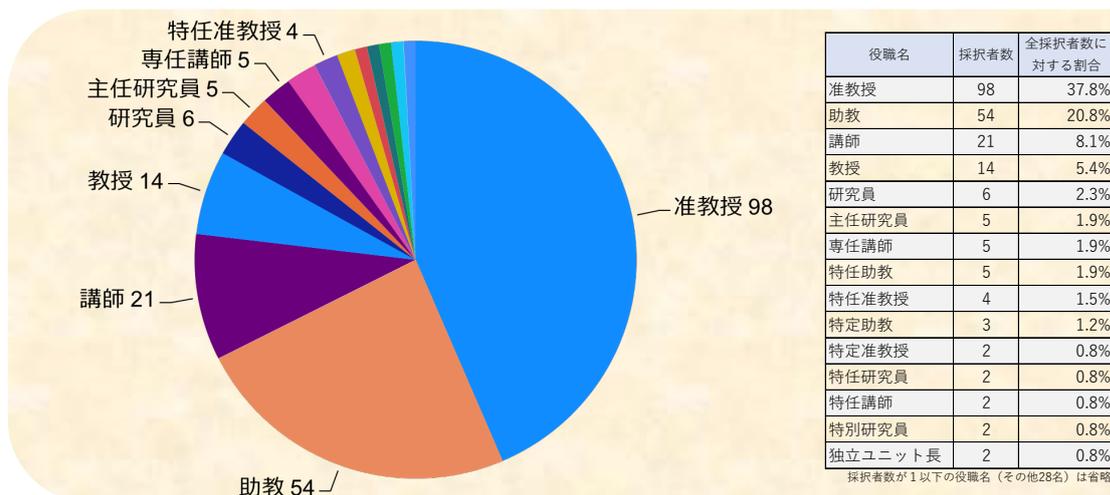
前回同様に「生化学、遺伝学および分子生物学」、「物理学および天文学」、「医学・薬学」、「工学」、「化学」、「材料科学」、「コンピュータ科学」の研究者が多く採択されています。前回と比べやや工学系の研究分野が多くなっています。

採択者の研究分野 (scopus の分類による)



採択者の役職名

採択者 259 名の役職は准教授が 98 名で最も多く、助教 54 名、講師 21 名、教授 14 名となっています (下図)。公募条件に当てはまる場合は、特別研究員も含め広く採択されています。



採択者一問一答



山野先生にコメントをいただきました。採択課題名は「デザイナー抗原提示細胞による免疫制御法の開発」です。

Q: どのような観点で申請を作成しましたか。

A: 創発的研究は破壊的イノベーションに繋がるシーズを創出する潜在性を持った科学技術に対する支援なので、自分が創り出すイノベーションは何なのかを意識して申請書を作成しました。分野外の人でもわかるような申請書を作成するように心がけました。

Q: 長期的な研究計画についてはいかがでしたか。

A: まずはフェーズ 1 (最初の 3 年間) における研究計画を具体的、現実的に考えました。長期的な展望に関しては、自分が創り出すイノベーションがどのように応用できるのかの可能性に関して検討して、夢のある技術であることをアピールしました

Q: 苦労したことを一言お願いします。

A: 研究提案の要旨が 2 ページ、研究提案が 6 ページあり、申請書の作成には時間にはかなり多くの時間を費やしました。特に要旨が重要だと考え、自分が創り出すイノベーションをわかりやすく伝えることに苦心しました。

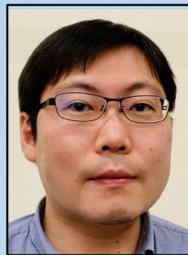


研究者紹介

論文ピックアップ

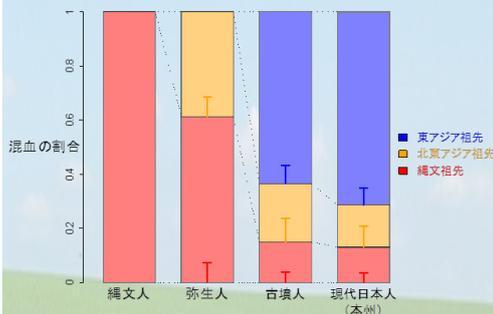
本学の「Papers of the Month」に選ばれた最新の論文を紹介します。

金沢大学人間社会研究域附属古代文明・文化資源学研究センター
「世界初！パレオゲノミクス解析により日本人の祖先集団を特定」



覚張 隆史
助教

日本列島の遺跡出土人骨から新たに縄文人9個体・古墳人3個体のパレオゲノムデータを取得しました。既報の古人骨のゲノムデータを用いた大規模パレオゲノミクス解析を実施し、縄文人の祖先集団が約20,000～15,000年前に大陸の基層集団から分かれ、初期集団は1,000人程度の小さな集団サイズを維持していたことが分かりました。弥生時代に北東アジアの起源集団が、古墳時代には東アジアの起源集団がそれぞれ日本列島に渡ってきたことが明らかとなりました。



本研究により、これまでの「日本人の二重構造モデル」をさらに発展させた、「日本人の三

重構造モデル」を新たに提唱しました。今後日本列島に眠る膨大なパレオゲノムデータから日本人の成り立ちを探る重要なデータとなることが期待されます。

掲載雑誌名：「Science Advances」 (IF = 14.143)

<https://www.science.org/doi/10.1126/sciadv.abh2419>

編集者コメント

科学研究費助成事業や外部研究事業等についての情報を分析し、研究者の皆様幅広く発信するために、「FSSI Research Report」を毎月発行しています。レポートに記載の分析結果詳細やアーカイブを[ホームページ](#)に掲載していますので、ぜひご覧ください。

ご紹介した「創発的研究支援事業」について、前回の採択者の皆様にご協力いただき作成した[Tips集](#) (採択のコツ) を公表中です。採択者の方々の忌憚のない意見を掲載していますのでご活用ください (池田)。

リンク一覧

創発的研究支援事業 HP

<https://www.jst.go.jp/souhatsu/index.html>

研究支援全般に関する情報

<https://o-fsi.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

分析結果やレポートのアーカイブ

<https://kanazawa-fssi.com/ir-analysis/>

FSSIによる研究支援

<https://o-fsi.w3.kanazawa-u.ac.jp/researcher/support/>

【お問い合わせ】

金沢大学先端科学・社会共創推進機構 (FSSI)

✉ : kanazawa-fssi-ir@kanazawa-fssi.com



いよいよ冬の季節が到来です。